垂仁天皇

【え】

01

天皇愛之

天皇愛(めぐ)みて

05

生而天皇愛之

生れまして天皇愛みたまひて

07

是歳歳任那人蘇那曷叱智請之

是の歳、任那人蘇那曷叱智請さく

新羅人遮之於道而奪焉

新羅人、道に遮へて奪ひつ

09

因伺皇后之燕居而語之

因りて皇后の燕居(わたくしにましま)すを伺いて、語りて

10

而空思之

而して空しく思はく

即眼涙流之落帝面

即ち眼涙流りて帝の面に落つ

天皇則寤之

天皇則ち寤(おどろ)きて

復大雨從狹穂發而來之濡面

復た大雨狹穂より發り來て面を濡す

天皇枕妾膝而寢之

天皇、妾が膝に枕して寢(みね)ませり

從袖溢之沾帝面

袖より溢りて帝面を沾しつ

時狹穂彦興師距之

時に狹穂彦、師を興して距(ふせ)ぐ

皇后悲之

皇后悲しみて

踰城上而出之

城の上を踰えて出でたまへり

唯妾雖死之

唯し妾死(まか)ると雖も

11

於四方求之

四方に求めむに

天皇聞之

天皇聞しめして

亦蹈折其腰而殺之

亦た其の腰を蹈み折きて殺しつ

13

葛野自墮輿而死之

葛野にして自ら輿より墮ちて死(みまか)りぬ

14

因有司而議之

因りて有司(つかさつかさにみことおほ)せて議(はか)れ

15
譽津別皇子侍之
譽津別皇子侍(はべ)り

天皇則知皇子見鵠得言而喜之
天皇則ち皇子の鵠を見て言を得たりと知しめて喜びたまふ

誰能捕是鳥獻之
誰か能く是の鳥を捕へて獻らむ

18
更還之入近江國
更に還りて近江國に入りて

19

分明奏言之
分明しく奏言す

20
吉之
吉し

以時祠之
時を以て祠らしむ

23
遂死而爛㠯之
遂に死りて爛(く)ち㠯(くさ)りぬ

其雖古風之
其れ古の風と雖も

議之止殉
議りて殉(しぬるにしたが)はしむることを止めよ

24
天皇詔之
天皇詔して

25
願今將議便事而奏之
願くは今便事を議りて奏む

天皇、於是大喜之
天皇是に大いに喜びたまひて

26
時左右奏言之
時に左右奏して言さく

天皇於茲執矛祈之
天皇、茲に矛を執りて祈(うけ)ひて

因此物而推之
此の物に因りて推(おしはか)るに

29
數八百之
數八百

32
天之神庫隨樹梯之
天の神庫も樹梯に随い

是犬咋山獸名牟士那而殺之
是犬、山の獸、名は牟士那といふ咋ひて殺しつ

因以獻之

因て以て獻る

33
乃自捧神寶而獻之
乃ち自ら神寶を捧げて獻る

仍匿袍中而自佩之
仍りて袍の中に匿して自ら佩(は)けり

而召之賜酒於御所
召して酒を御所に賜ふ

刀子從袍中出而顯之
刀子袍の中より出で顯る

天皇見之
天皇見(みそなは)して

開寶府而視之
寶府を開きて視れば

天皇則惶之
天皇則ち惶(かしこま)りたまひて

36
泣悲歎之
泣(いさ)ち悲歎(なげ)きて

臣雖生之
臣生けりと雖も

叫哭而自死之
叫び哭きて自ら死せり